

学びたい



平戸市立生月中学校
学校便り(学び通信)
第3号
平成29年 5月
文責 西澤 庄藏

県教委文書から「家庭との連携」を考えました。

平成29年4月付けで長崎県教育庁義務教育課から長崎県「新・学力向上のための三つの提案」が発信されました。

長崎県「新・学力向上のための三つの提案」

「できた」「分かった」の笑顔あふれる授業

- 「めあて(課題)」と「まとめ」が子供に届く授業
- ねらいに即した「書く活動」を重視する授業
- 「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業

「夢・憧れ・志」を共に育む家庭・地域との連携

- 課題の質と量を見極め、自主的な家庭学習の習慣化を図るための連携
- 子供の学びを認め合い、自己肯定感を高めるための連携
- 学校での学びを生かす場を創るための連携

子供が成長する喜びを分かち合う職員室

- 全教職員が自校の課題を理解し、日々の授業改善につなぐ職員室
- 研修の機会を学校の内外に求め、学び続ける職員室
- 学年・教科・世代を越えて語り合う職員室

二つ目の家庭との連携について考えました。

平成28年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査から、生徒の自主的な取組(学習意欲の高まり)について考察しました。

生徒への質問「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか?」の回答結果と学力調査結果とのクロス集計に着目しました。

「当てはまる」と回答した生徒の国語・数学の全国平均正答率 62.5



「当てはまらない」と回答した生徒の国語・数学の平均正答率 55.3

このことから、よいところを認めてもらったと意識している生徒は、学力が高い傾向にあると言えます。励ましや声かけを行い、家庭でも小さい成功体験を積み重ねることで、意欲は高まると考えます。

家庭学習の充実については、今後、この通信「学びたい」でも、随時、啓発をしていきます。家庭学習に取り組ませるためには、その必要性や効果を分かりやすく伝え、家庭と連携して取り組むことが必要だと考えるからです。

6月26日(月)からの1週間を「長崎っ子の心を見つめる」教育週間として学校を開放します。保護者の皆様、そして、地域の皆様へ。まずは、学校や子供たちの様子を見に来てください。どうぞ、お待ちしております。(詳細は、後日、ご案内します。)